

ほすびっ人



自然寺(本郷北方)製作の門松が、迫田病院・サンヒルきよたけ・太陽の丘・あおしまのいえ・小戸の家に御目見。皆様のご健康を、心より祈念いたします。

NO.301

年のはじめのためとして



さこだ こういちろう
迫田 耕一朗
社会医療法人耕和会
社会福祉法人耕和会
理事長・病院長

コロナは自然災害である。想定外に対応できず翻弄されたこの世界は自ら禍を招いている。人為災害にならない準備が必要である。遊ぶ時間が少なくなったお陰で積み残した課題に取り組む余裕ができた。これは不幸中の幸い、天の思し召しであろう。大震災で被災したという想定で11月18日、事業継続計画(BCP)に着手した。その目的は禍の最小化である。進捗状況をここに紹介する。

被災時の医療を継続するには多部門の連携が必要である。自分の得意分担を担い、欠損する部分を穴埋めする必要がある。リーダーもスタッフも「私でよかったらやらせていただきます」と自ら手を挙げてくださった。嬉しくも頼もしい限りである。心意気に感謝している。上席者だけでは達成できない事が多い。

第1回災害対策会議は、耕和会の全9事業所から36名が参加し、災害と医療について、日本医師会雑誌（特集）を参考に基本事項を供覧した。防災委員会の行動に何が欠けているかも検証した。

第2回会議では院長や施設長を中心とするBCP検討体制を整備し8つのステップを踏むことにした。責任者は毎月一回の定例会議に分担分野の進捗を報告し、ステップ6.以降の議論に耐える準備をすることとした。東京都のBCPガイドラインを参考にしている。第一弾の完成は2021年6月を目指している。これも一人一人の命を切り捨てない準備である。

ステップ1.「BCPの方針と検討組織」が終わった。基本方針（迫田病院）は「寸断なく医療提供を行う」

「人命を最大限優先する」

「災害連携病院として行動する」である。

ステップ2.「現状の把握」も終わった。

次回はステップ3.「被害の想定」である。

そしてステップ4.「通常業務の整理」、

ステップ5.では「災害時応急対策業務の整理」を行う。これらは、

ステップ6.「業務継続のための概要表の作成」を見据えたステップである。

39の優先業務の細分類項目を5つに大分類し縦軸に表す。

A) 情報 B) 体制 C) 搬送 D) 診療
E) 医薬品・ライフライン・付帯業務の5つである。

被災直後からの時間とフェーズを横軸に表し優先業務にスタートを明示する。

ステップ7.で「概要表の文書化」

ステップ8.で「BCPのとりまとめ」

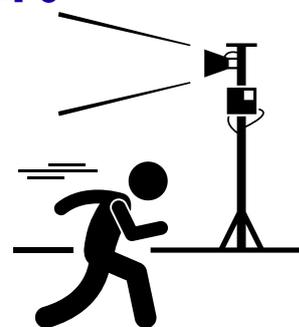
を行う。

次回は「被害の想定」について準備する。

(続く)

どう備え、どう動くのか。 想定外の想定をする、 事業継続計画。

BCP Business Continuity Plan



>防災訓練<

当法人には青島沿岸、大淀川河畔等に9つの事業所が点在し、地震・津波・大雨などの自然災害に十分備える必要があります。各施設では定期的に職員による避難誘導訓練を実施、また近隣住民の方にもご参加いただける実践的な研修会等も随時開催しています。

📷 One Team

ワーク・ライフ・バランス委員会
職場環境改善推進室



↑景品獲得者
記念撮影の
ひとコマ

職場でも家庭でも自粛生活が続く中、心躍るイベントが企画されました。皆がひとりで参加する新しいタイプのイベントです。院内のあらゆる所に隠されたお宝（チャーム）探しの1か月間、最終日は景品交換というご褒美付き企画でした。お宝とあって普段なら見過ごしてしまいがちな場所までふと気になったりして、ついでの除菌作業が大いに捗ったという話も。景品の一部は関係機関より贈呈されました。一堂、感謝申し上げます。



社会医療法人耕和会 広報誌「ほすびっ人」第301号 2021年（令和3年）1月7日発行
発行：社会医療法人耕和会 本部
〒880-0917 宮崎市城ヶ崎3-2-1
TEL 0985-51-3555（代表） FAX 0985-51-0075 E-Mail : hello@kowakai.jp